

(資料1)

四国森林管理局管内の木材価格等の推移
(最近の動向)

令和3年12月22日
四国森林管理局

目 次

I	管内における主な原木市場・共販所の状況	
1	丸太価格の推移	1
2	丸太取扱量の推移	5
II	管内における製材等の状況	
1	製材用素材入荷量の推移	8
2	製材用素材在庫量の推移	9
3	製材品価格の推移	10
III	全国の丸太価格の動向	11
IV	住宅着工戸数	
1	四国における木造住宅着工戸数の推移	13
2	全国の住宅着工戸数の推移	14

管内における主な原木市場・共販所の状況

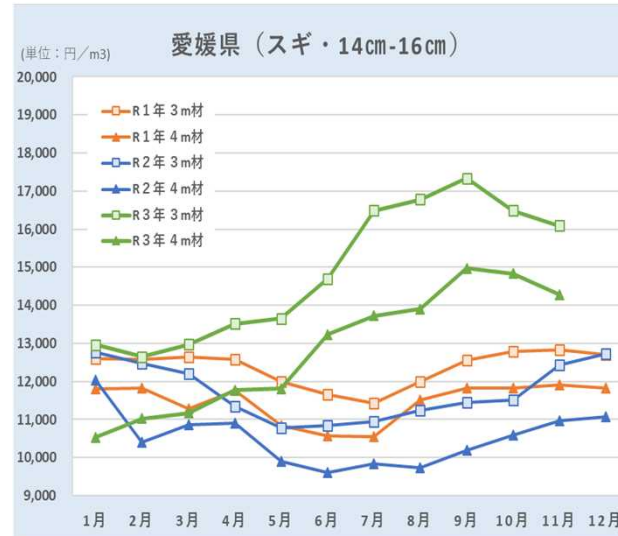
1-(1) 丸太価格の推移（スギ、径14cm～16cm 長3m材・4m材）

- 春先から原木需要の高まりにより買い方の引き合いが続いたが、最近では引き合いも落ち着く。
- 徳島県では、5～6月頃から大幅に上昇したが、その後は若干落ち着きを見せ、以後は保合で推移。
- 愛媛県・高知県では、4月頃から構造用丸太を中心に引き合いが強くなり徐々に上昇したが、9月頃をピークに弱気配に転じている。
- 11月のスギ丸太価格は、前年同月比121%から146%で推移。

○11月のスギ丸太価格

(円/m³)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
徳島県	3 m材	14,500	12,000	121%
	4 m材	15,000	10,500	143%
愛媛県	3 m材	16,086	12,433	129%
	4 m材	14,283	10,963	130%
高知県	3 m材	16,833	11,500	146%
	4 m材	15,333	10,667	144%



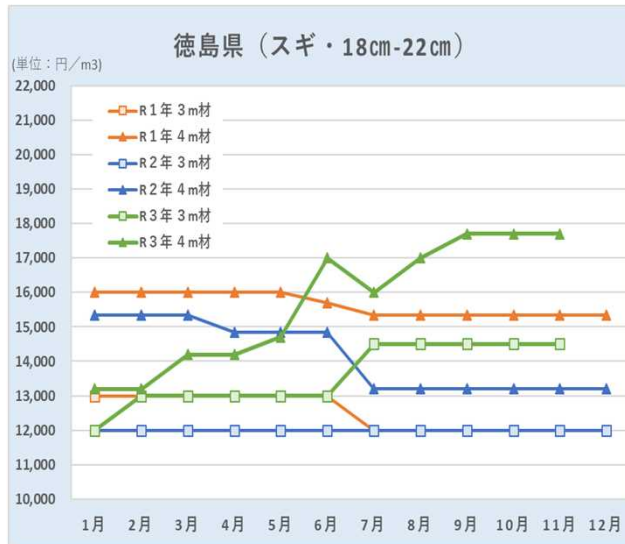
1-(2)丸太価格の推移（スギ、径18cm～22cm 長3m材・4m材）

- 中目材も柱適寸丸太と同じく春先から引き合いが強く、以後価格は堅調に推移したが、最近では弱気配が見られる。
- 徳島県では4m材を中心に6月頃に大きく上昇、その後は全体的に保合で推移。
- 愛媛県・高知県では、3m材を中心に6月頃から徐々に高騰したが、8～9月頃をピークに弱気配へと移行、3m材については、特に愛媛県での下落が目立つ。
- 11月のスギ丸太価格は、前年同月比121%から156%で推移。

○11月のスギ丸太価格

(円/m³)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
徳島県	3m材	14,500	12,000	121%
	4m材	17,700	13,200	134%
愛媛県	3m材	17,900	13,167	136%
	4m材	18,130	13,097	138%
高知県	3m材	18,500	11,833	156%
	4m材	18,333	13,000	141%



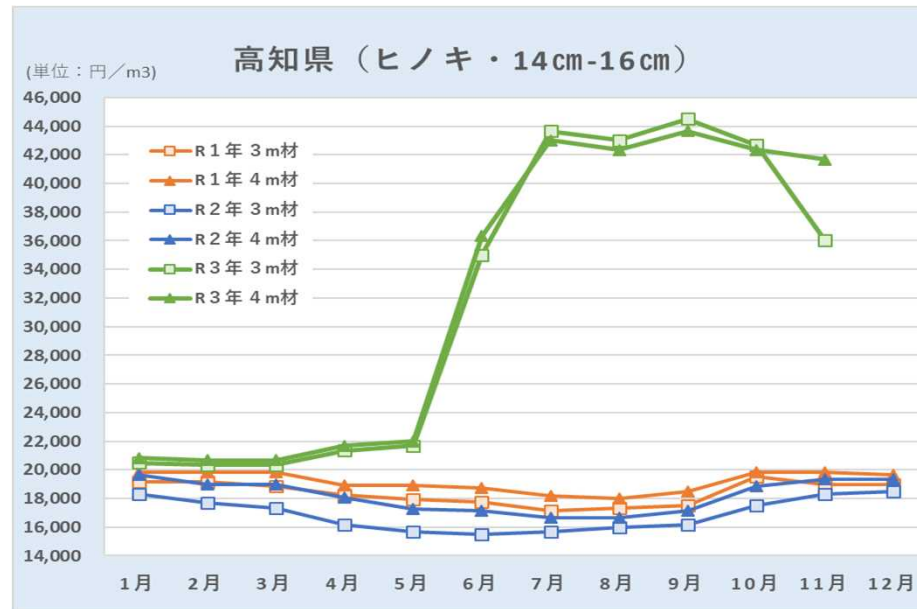
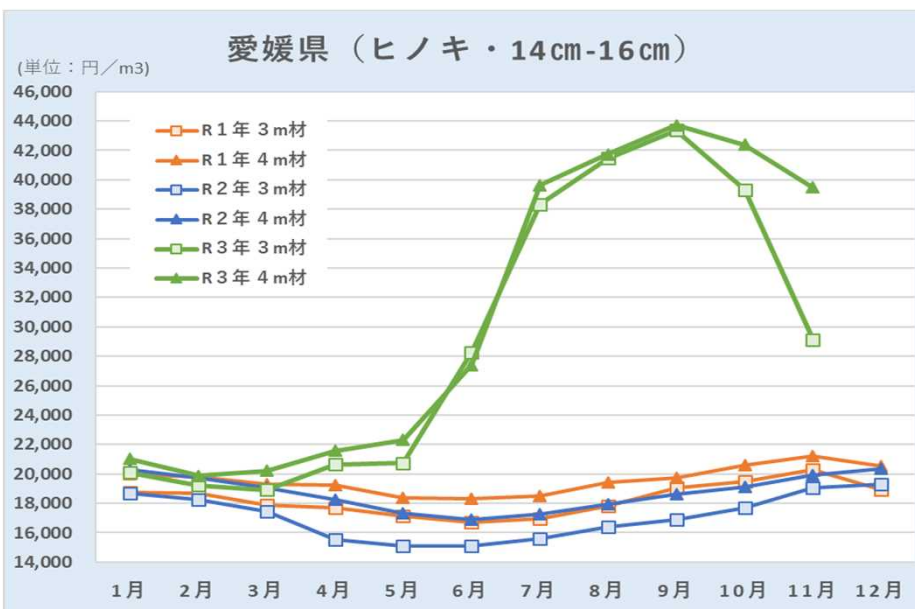
1-(3)丸太価格の推移（ヒノキ、径14cm～16cm 長3m材・4m材）

- ヒノキもスギと同様に構造用丸太を中心に4月頃から買い方の引き合いが強くなり、6～9月にかけては価格が徐々に高騰したが、9月頃をピークに引き合いが落ち着き、その後は弱気配で推移。
- 特に3m柱適寸丸太の下落が顕著で、愛媛県の11月価格は前月に比べ▲1万円と大幅に値を下げるなど、本年6月の水準まで下落した。
- 11月のヒノキ丸太価格は、対前年比153%から216%で推移。

○11月のヒノキ丸太価格

(円/m³)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
愛媛県	3m材	29,133	19,057	153%
	4m材	39,467	19,922	198%
高知県	3m材	36,000	18,333	196%
	4m材	41,667	19,333	216%

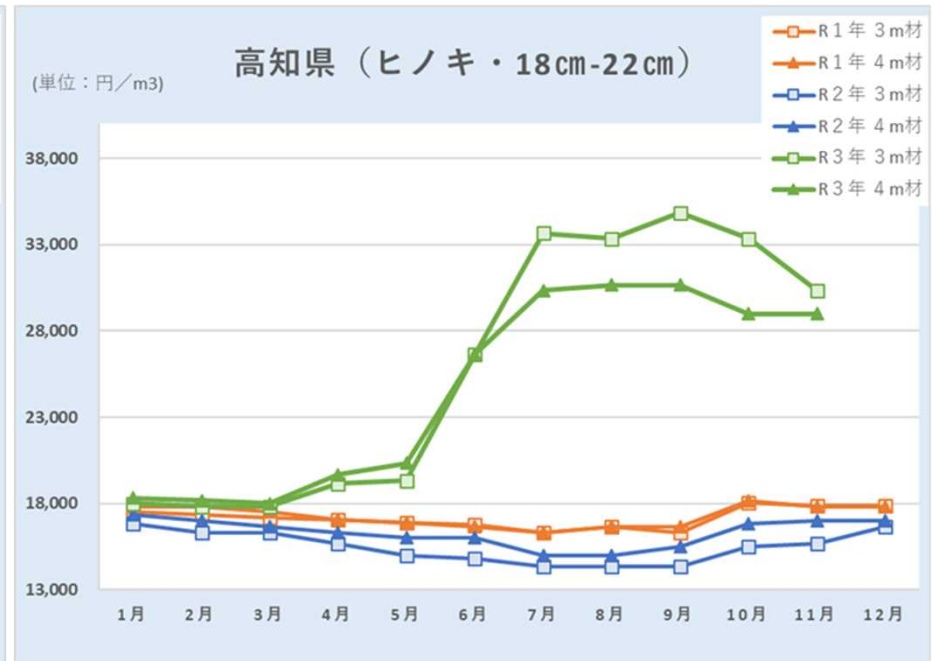
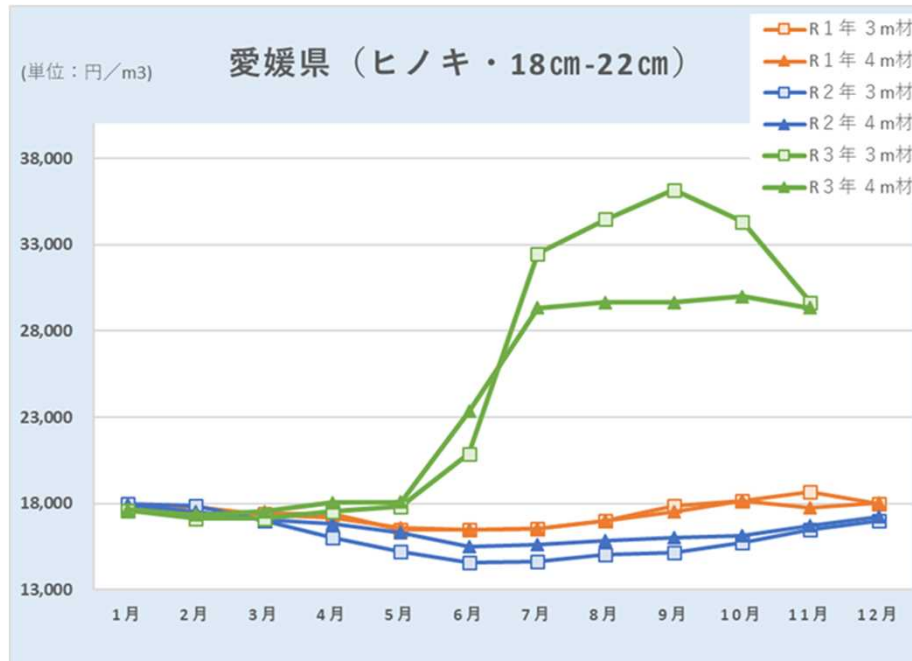


1-(4)丸太価格の推移（ヒノキ、径18cm～22cm 長3m材・4m材）

- 中目材も柱適寸丸太と同じく、本年4月頃から引き合いが強くなり、6～9月にかけて価格が徐々に高騰したが、9月頃をピークに、その後は弱気配へと転じている。
- 特に愛媛県での下落が目立つが、高知県でも同様の下落傾向となっている。
- 本年11月のヒノキ丸太価格は、対前年比171%から194%で推移。

○11月のヒノキ丸太価格 (円/m³)

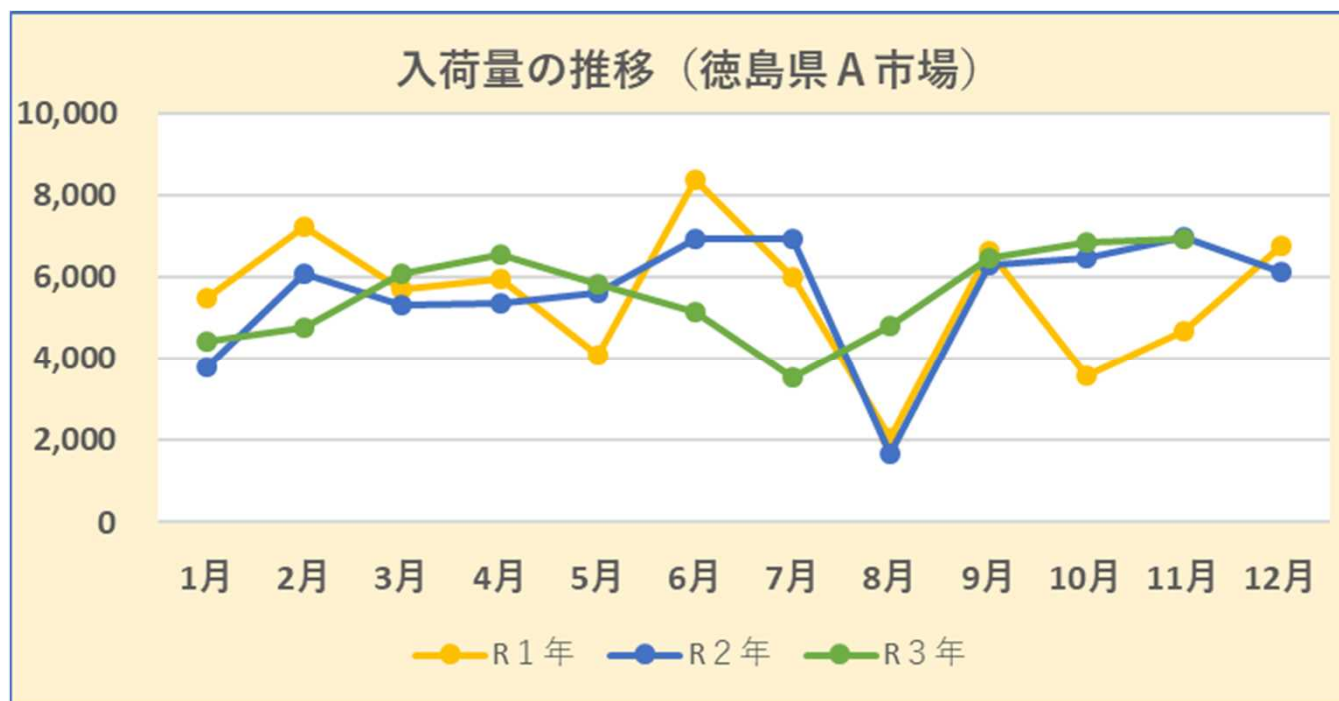
県	長級	当月	前年同月	前年同月比
愛媛県	3m材	29,667	16,467	180%
	4m材	29,333	16,733	175%
高知県	3m材	30,333	15,667	194%
	4m材	29,000	17,000	171%



Ⅰ 管内における主な原木市場・共販所の状況

2-(1) 丸太取扱量の推移（徳島県）

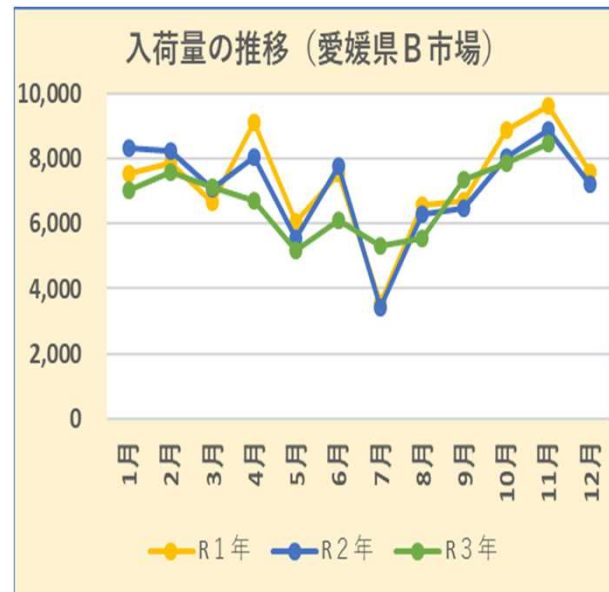
- 夏場には長雨等の影響で入荷量が少なかったが、9月から最近にかけての入荷は順調に回復。
- 土場には未選別の状態で在庫が多く例年にない状況。丸太価格の上昇や県有林の生産が非常に多かったことが要因の一つ。
- 年末にかけて価格変動の動き、その後の雪の影響など、今後の入荷見通しは不透明。



四国森林管理局調べ

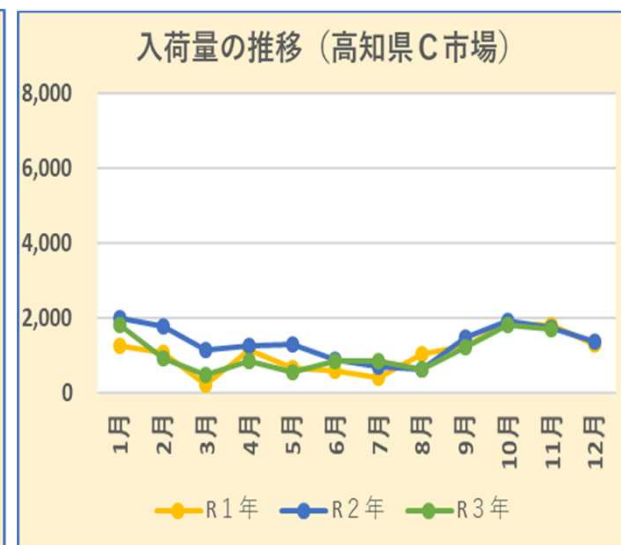
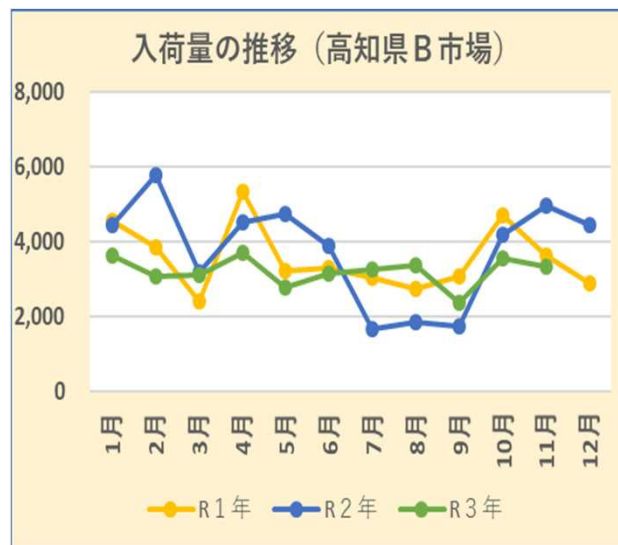
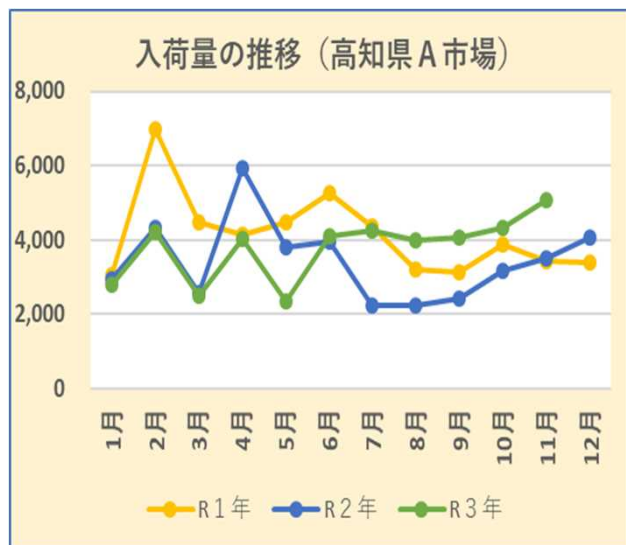
2-(2) 丸太取扱量の推移（愛媛県）

- 9月以降は天候にも恵まれ、入荷は例年に比べ大幅に増加。
- 価格高騰による自伐林家の復活や主に広葉樹（しいたけ原木）を生産していた事業者のスギ・ヒノキ生産への移行もみられる。
- 好調な出材はしばらく続くも、木材製品の荷動きに一服感が伝えられ原木価格が下落傾向のため、今までのような出材意欲は薄れるのではとの見通し。



2-(3) 丸太取扱量の推移（高知県）

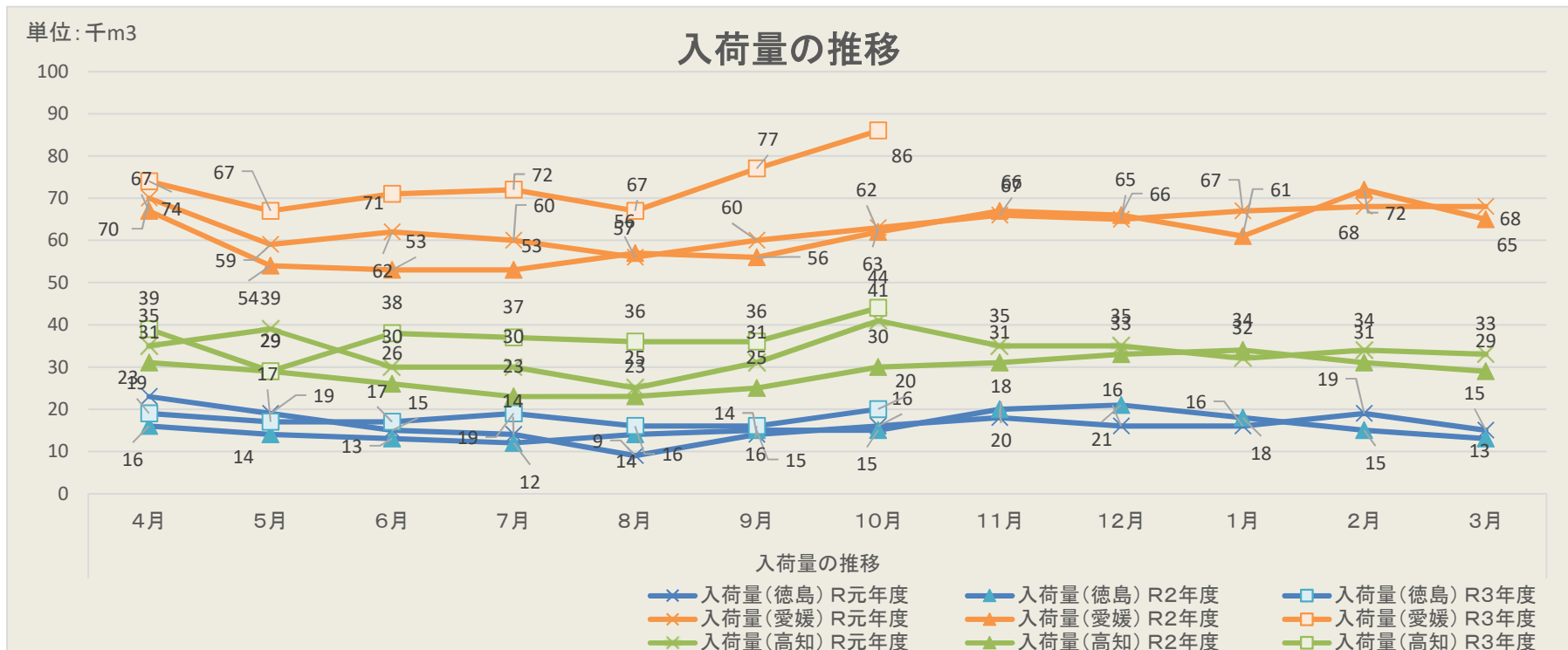
- 原木価格の上昇に伴い出荷量が増加しており、入荷は順調に推移。
- 特にスギ3m、ヒノキ3mの出荷が多く、3m材については供給過多、逆にスギ、ヒノキともに4m材は不足気。
- 出材は、今後もしばらくは増加傾向で推移するのではとの見通し。



II 管内における製材等の状況

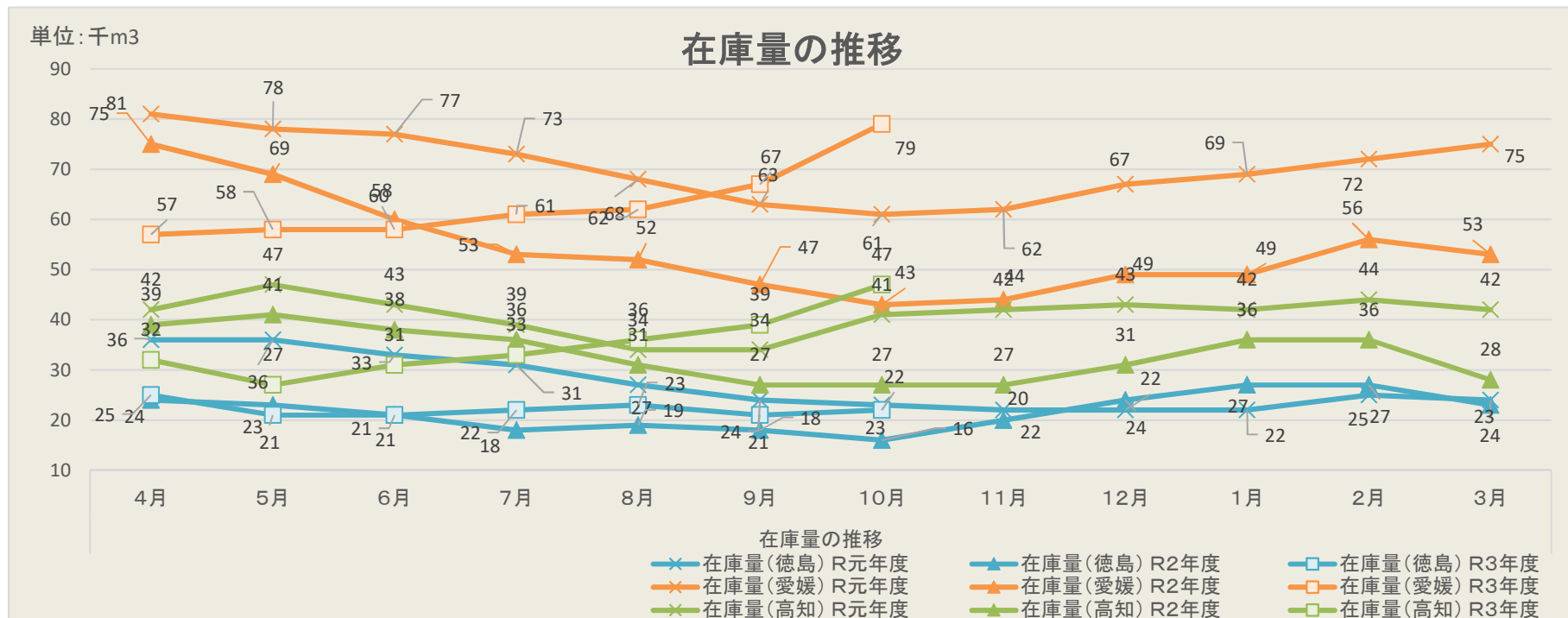
1. 県別の製材用素材入荷量の推移（令和元年度～令和3年度）

- 令和2年5月頃から製材各社の丸太買い控え等により減少していた入荷量も、8月頃から上昇に転じ、秋以降は概ね例年の水準に回復。
- 令和3年4月頃からは、製材品の好調な動きによる素材の引き合いは好調を継続し、愛媛県では4月以降昨年の入荷量を上回り、徳島県、高知県でも6月頃から昨年の入荷量を上回っている。



2. 県別の製材用素材在庫量の推移（令和元年度～令和3年度）

- 各県ともに令和2年6月以降大幅に減少した在庫量は、11月頃から一時上昇傾向に転じたものの、製材各社においては好調な生産活動が続く中、素材の入荷には苦勞しているため、在庫量の回復ペースは遅い。
- 令和3年6月頃から、在庫量は増加に転じ、8月にはほぼ例年の水準に回復、以降、徳島県では横這い、愛媛県・高知県ではさらに在庫量は増加している。



資料：農林水産省「製材統計」

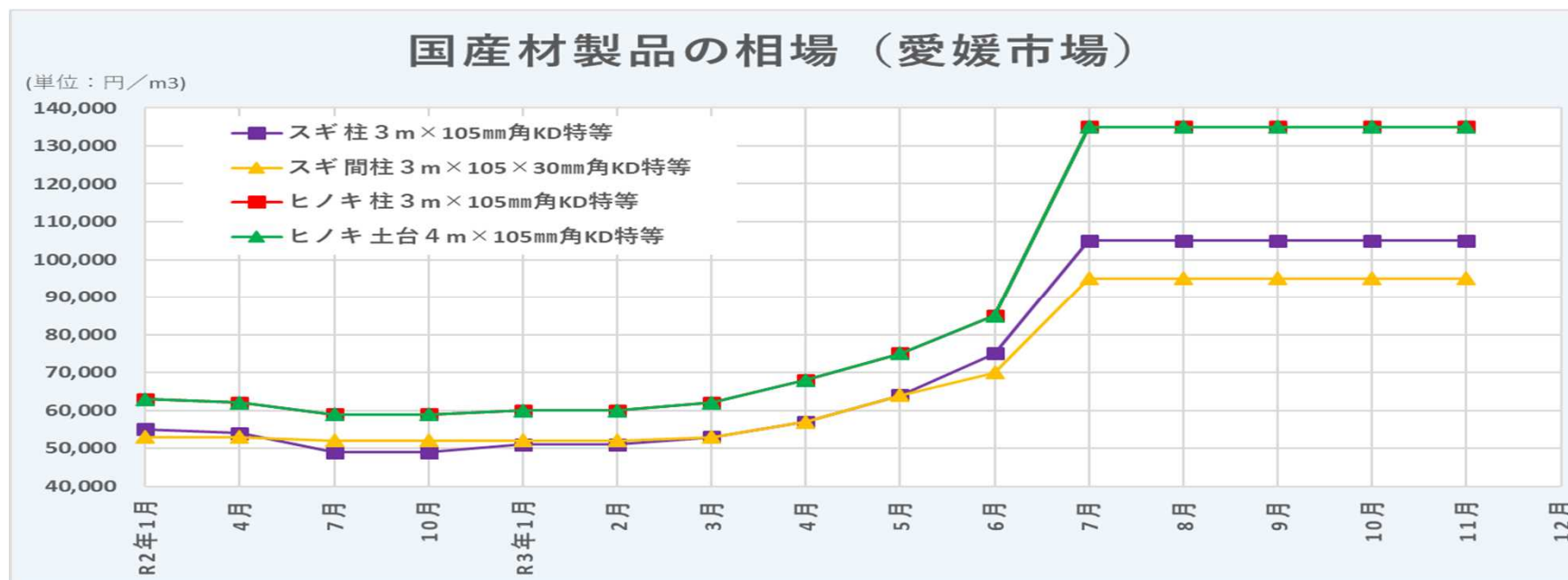
3. 製材品価格の推移

- 輸入材の代替需要の高まりから、スギ・ヒノキともに構造材を中心とする品目で徐々に値を上げ、7月からは高値安定に。
- その後、愛媛県でも11月まで高値を維持。
- 全体的に、相場は高値安定しているものの、7月頃の勢いは見られない。

国産材製品の相場（愛媛県）

単位：円/m³

	品目	当月	前年 同月	前年 同月比
スギ	柱 3 m × 105mm角KD特等	105,000	49,000	214%
スギ	柱 3 m × 120mm角KD特等	95,000	49,000	194%
スギ	間柱 3 m × 105 × 30mm角KD特等	95,000	52,000	183%
ヒノキ	柱 3 m × 105mm角KD特等	135,000	59,000	229%
ヒノキ	柱 3 m × 120mm角KD特等	130,000	59,000	220%
ヒノキ	土台 4 m × 105mm角KD特等	135,000	59,000	229%
ヒノキ	土台 4 m × 120mm角KD特等	130,000	59,000	220%

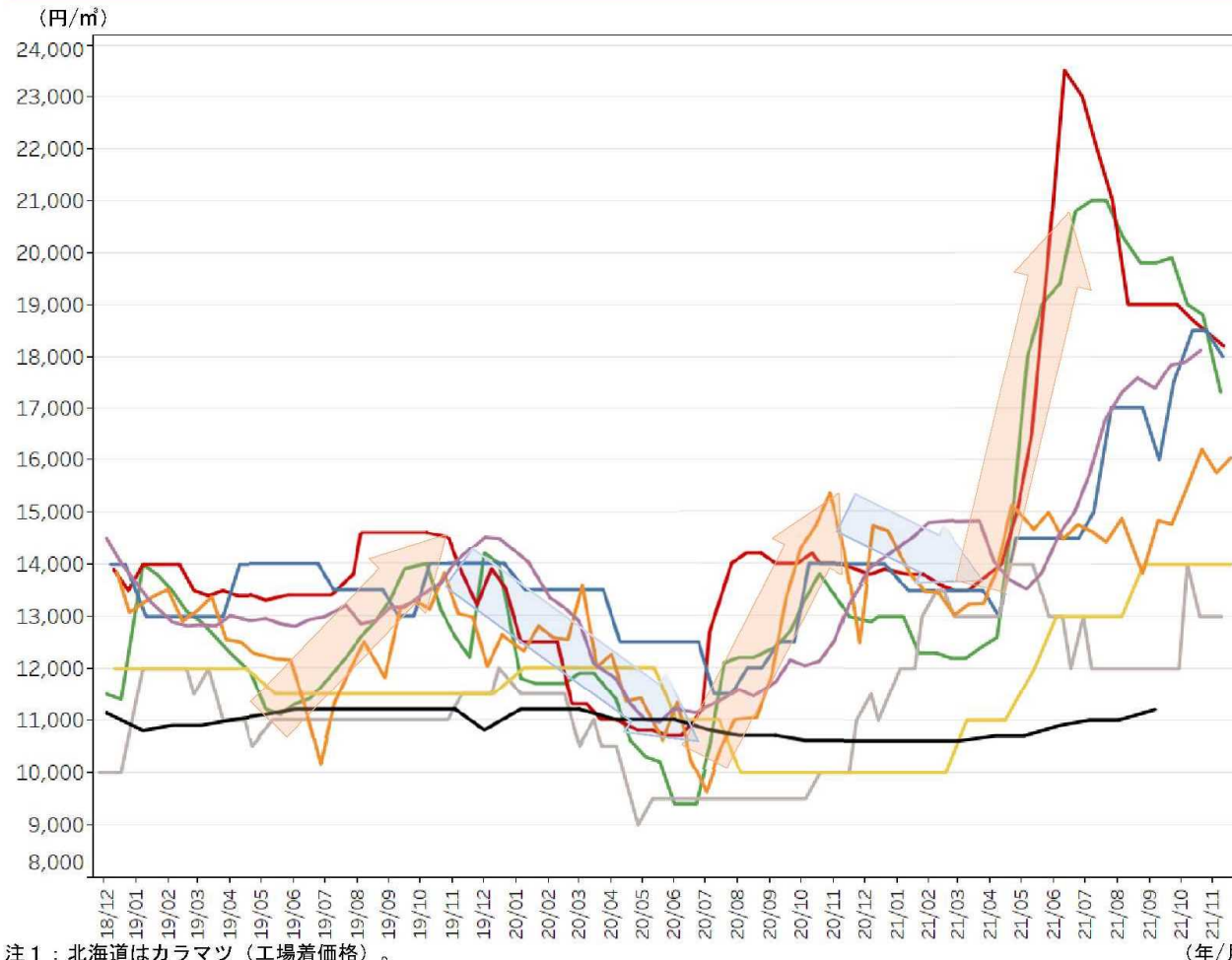


Ⅲ 全国の丸太価格の動向

1 価格の動向 (1) 原木価格 (原木市場・共販所)

ア スギ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

- ・ 2021年に入ってから、例年であれば春から梅雨時期にかけて原木価格が下落する時期にもかかわらず、4月以降、上昇が見られる地域が多く見られる。九州地域では一時、価格が高騰したが、直近では落ち着きも見られる。
- ・ 直近のスギ原木価格は、前年同期比125%から149%となっている。



都道府県	2021年直近*	前年同期	前年同期比
北海道	11,200	10,700	105%
秋田県	18,120	12,130	149%
栃木県	16,040	12,500	128%
長野県	14,000	10,000	140%
岡山県	13,000	10,000	130%
高知県	18,000	14,000	129%
熊本県	18,200	14,000	130%
宮崎県	17,300	13,800	125%

※栃木県、長野県、岡山県、高知県、熊本県及び宮崎県については11月、秋田県は10月、北海道については9月の値を使用。

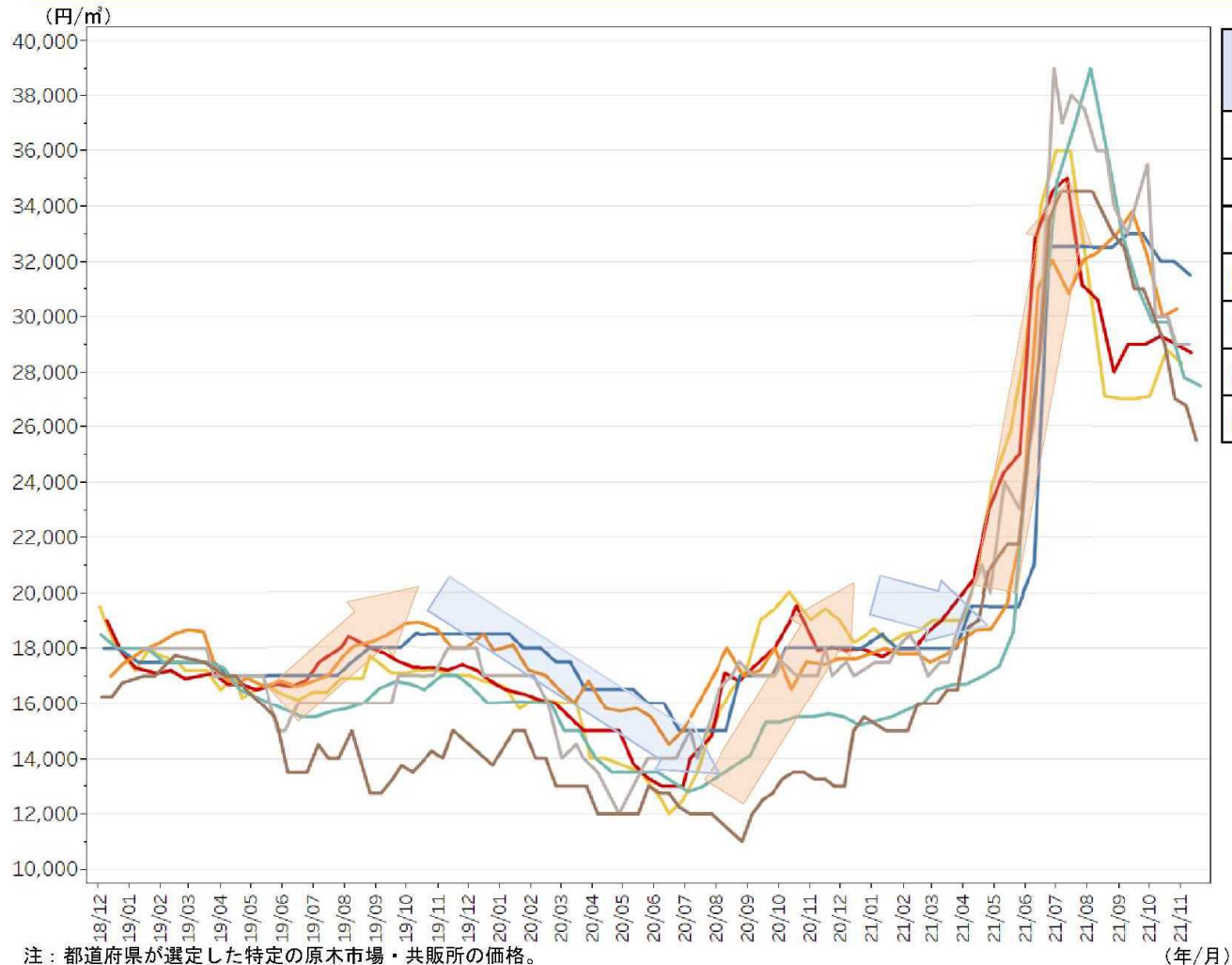
注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。

注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

イ ヒノキ（全国） 径24cm程度、長3.65～4.0m（2018年12月～）

- ・ヒノキにおいてもスギと同様の傾向にあり、例年であれば原木価格が下落する時期において、全ての地域で大きく上昇したが、直近では落ち着きも見られる。
- ・直近のヒノキ原木価格は、前年同期比149%から193%となっている。



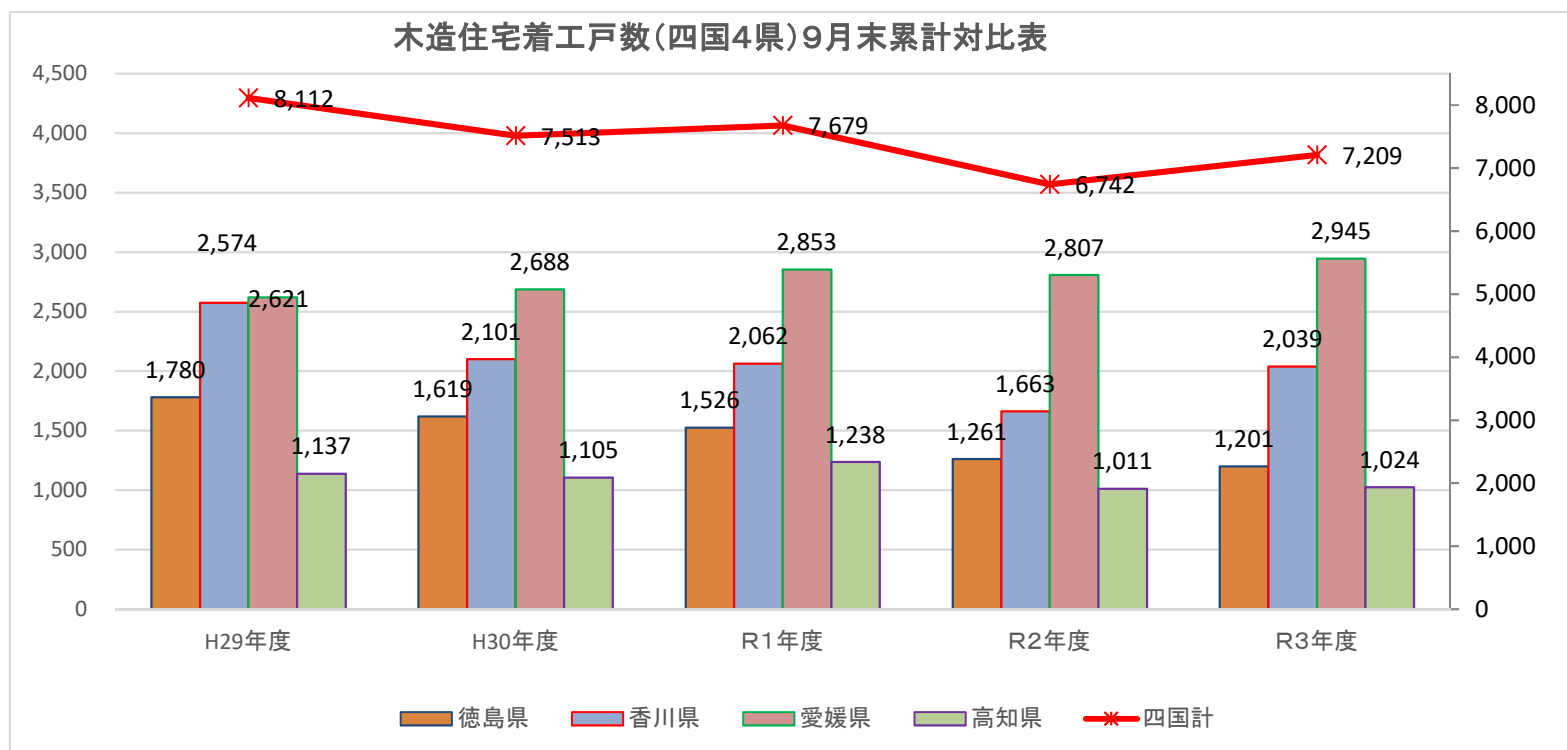
都道府県	2021年直近*	前年同期	前年同期比
兵庫県	25,500	13,250	193%
岡山県	29,000	17,000	171%
広島県	27,500	15,600	176%
愛媛県	30,280	17,500	173%
高知県	31,500	18,000	175%
熊本県	28,700	17,900	160%
大分県	28,300	19,000	149%

*兵庫県、岡山県、広島県、高知県、熊本県及び大分県については11月、愛媛県については10月の値を使用。

IV 住宅着工戸数

1 四国における木造住宅着工戸数の推移

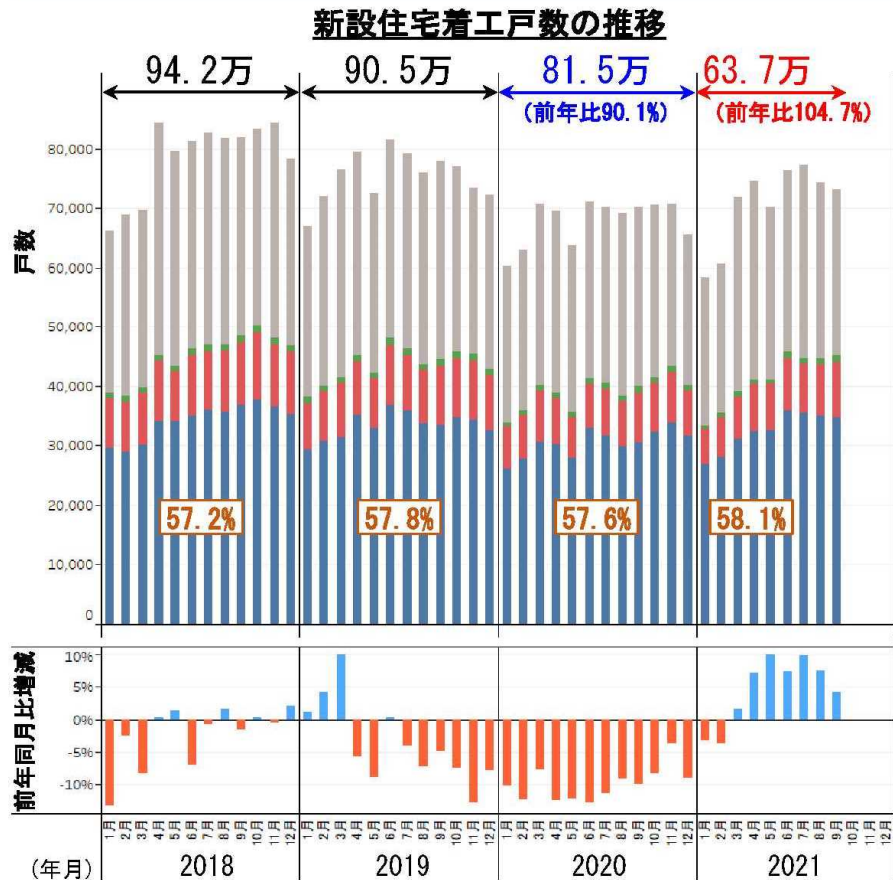
- 四国における木造住宅着工戸数の令和3年度9月末累計は、7,209戸で、前年同月末累計6,742戸に比べ7%増加した。
- 過去4年間での比較では、徳島県では減少率は大きく、香川県では減少傾向から令和3年度は若干回復、愛媛県・高知県では概ね横這いで推移している。



資料:国土交通省「住宅着工統計」

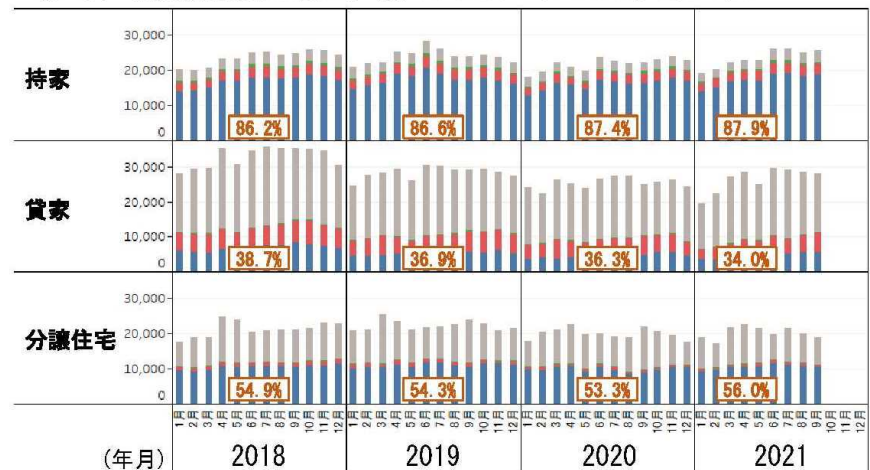
2 全国の住宅着工戸数の推移（平成30年1月～令和3年7月）

- ・ 2020年の新設住宅着工戸数は、81.5万戸（前年比90.1%）、このうち木造住宅は46.9万戸（同89.7%）。
- ・ 2021年1～9月の新設住宅着工戸数は、63.7万戸（前年比104.7%）、このうち木造住宅は37.0万戸（同107.5%）。
- ・ 2020年は緊急事態宣言の発令により、住宅展示場の来場者数が落ち込むなど大手・注文住宅の受注機会が大幅に減少したが、郊外の戸建住宅に需要が高まるなど全体としてはリーマンショック時ほどの落ち込み※は見られなかった。
（※2009年の新設住宅着工戸数は前年比72%となった。）



構造別の着工戸数	2021年 1～9月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	636,673	608,214	104.7%	682,303	93.3%
■ 非木造	266,483	263,936	101.0%	292,849	91.0%
木造	370,190	344,278	107.5%	389,454	95.1%
■ 木造プレハブ	7,641	8,010	95.4%	9,019	84.7%
■ 2×4	70,312	68,636	102.4%	80,742	87.1%
■ 在来軸組	292,237	267,632	109.2%	299,693	97.5%
□ 木造率	58.1%	56.6%		57.1%	

(参考) 利用関係別の着工戸数（ただし、「給与住宅」を除く。）



「定常範囲を逸脱する動き」について

(資料2)

分析結果

四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会運営要領（平成25年7月30日付け25四資第19号）の2の（ア）から（オ）に係る確認

〔判断基準・指標〕

- 過去10年間の月別データを基に、平均と標準偏差から95%の信頼区間を算出し、その区間を逸脱するか否かを確認
- 使用データは、農林水産省の「木材価格」・「製材統計」を使用

（ア）木材価格の前月比における逸脱の有無

調査月 令和3年7月～令和3年10月

- 【スギ中丸太】 ・定常範囲を逸脱した動きはなかった。
- 【ヒノキ中丸太】 ・7月及び8月は逸脱上限値を上回ったが、9月以降は定常範囲に戻った。

（イ）木材価格の前月比における下落（上昇）の継続

調査月 令和3年7月～令和3年10月

- 【スギ中丸太】 ・8月に5ヶ月の連続上昇となったが、9月以降は下落に転じ5ヶ月未満である。
- 【ヒノキ中丸太】 ・8月に7ヶ月の連続上昇となったが、9月以降は下落に転じ5ヶ月未満である。

（ウ）木材価格の前年度同月比における逸脱の有無

調査月 令和3年7月～令和3年10月

- 【スギ中丸太】 ・全ての月で逸脱上限値を上回った。
- 【ヒノキ中丸太】 ・全ての月で逸脱上限値を上回った。

（エ）木材価格の2ヶ年平均価格比における逸脱の有無

調査月 令和3年7月～令和3年10月

- 【スギ中丸太】 ・9月までは逸脱上限値を上回ったが、10月には定常範囲に戻った。
- 【ヒノキ中丸太】 ・全ての月で逸脱上限値を上回った。

（オ）製材用素材の在庫率における逸脱の有無

調査月 令和3年7月～令和3年10月

- 【徳島県・愛媛県】 ・定常範囲を逸脱した動きはなかった。
- 【愛媛県・高知県】 ・定常範囲を逸脱した動きはなかった。

○ 丸太価格、在庫率の変動

1 スギ中丸太価格（徳島県・愛媛県）

	逸脱上限値 5.84%				逸脱下限値 -5.69%				逸脱上限値 21.44%				逸脱下限値 -20.10%				逸脱上限値 17.01%				逸脱下限値 -16.60%			
	前月比 (%)				連続上昇・連続下落 (月)				前年同月比 (%)				2ヶ年平均価格比 (%)											
	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月				
スギ中丸太 (径級14~22cm) (長級3.65~4.00m)	4.67%	0.52%	-1.35%	-3.14%	4	5	-1	-2	31.69%	34.10%	30.95%	25.33%	19.07%	19.98%	18.51%	16.94%								

注1) 数値のアンダーラインは定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 木材価格データは農林水産省の「木材価格統計」を使用し、算出したものである。

2 ヒノキ中丸太価格（愛媛県・高知県）

	逸脱上限値 8.98%				逸脱下限値 -8.75%				逸脱上限値 36.57%				逸脱下限値 -36.84%				逸脱上限値 28.83%				逸脱下限値 -30.92%			
	前月比 (%)				連続上昇・連続下落 (月)				前年同月比 (%)				2ヶ年平均価格比 (%)											
	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月				
ヒノキ中丸太 (径級14~22cm) (長級3.65~4.00m)	35.02%	13.37%	-3.03%	-3.78%	6	7	-1	-2	91.70%	120.27%	108.59%	104.26%	66.52%	89.01%	79.66%	73.44%								

注1) 数値のアンダーラインは定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 木材価格データは農林水産省の「木材価格統計」を使用し、算出したものである。

3 製材用素材の在庫量

	素材の在庫率			
	7月	8月	9月	10月
製材用素材(徳島・愛媛)	0.97	0.99	1.02	1.15
製材用素材(愛媛・高知)	0.92	0.95	1.03	1.21

逸脱上限値	逸脱下限値
1.90	0.79
1.58	0.88

注1) 数値のアンダーラインは定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 在庫率のデータは農林水産省の「製材統計」を使用し、算出したものである。